



第2回目の今回は、1946年(昭和21年)～1979(昭和54年)の34年間を振り返っていきます。

商工会議所と渋沢栄一

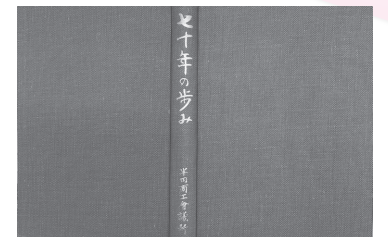
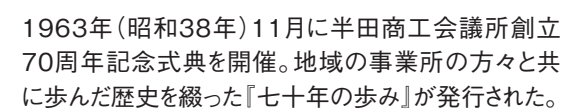
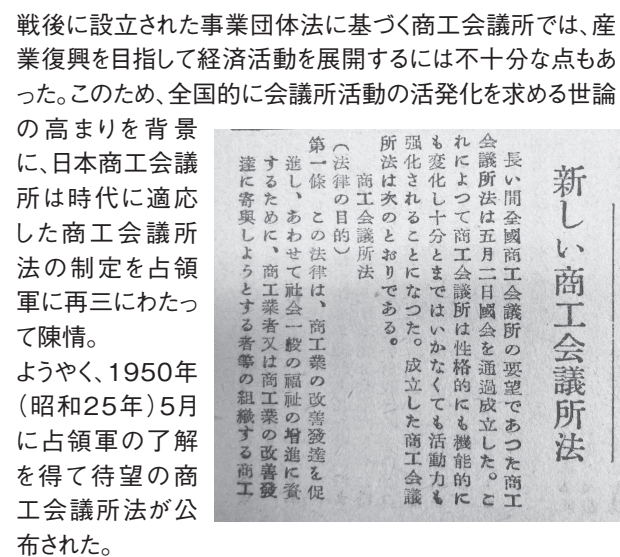
時は文明開化の明治時代、日本は海外諸国に対して自由に関税をかけられない不平等条約を結んでいました。当時の首相伊藤博文、大蔵卿である大隈重信らを中心とした明治政府はこの不平等条約の撤廃を目指し、英公使ハリー・パークスと交渉を行います。両名は「不平等条約は輿論（よろん）が許さないから」と主張するも、「日本には意見をまとめて協議するような機関も場所もないのになぜ輿論があるのだ?」とパークス英公使に一蹴されてしまいます。この交渉結果を経て、伊藤・大隈両名は「輿論」が必要となり、渋沢栄一に相談を持ち掛けました。この時渋沢栄一は、過去の渡欧経験から、「国の法律によらず一般商人の申し合わせで団体組織をなし、実際にやっているから十分にやれる」と答たそす。その後、政府の後押しで渋沢栄一が設立を主導し誕生したのが、商工会議所の前身となる商法会議所でした。現在では国内に515の商工会議所が存在し、地域経済・産業の振興に尽力しています。



1946	1947	1948	1949	1950	1953	1954	1956	1959	1960	1961	1963	1964	1965	1969	1970	1971	1972	1973	1974	1976	1977	1978	1979
・新商工会議所設立総会開催 常議員50名選出	・愛知県工業協会半田支部を 当所に設置	・日本国憲法施行	・半田市観光協会設立	・第1回全知多珠算競技大会開催 1ドル360円単一為替レート実施	・第1回全知多珠算競技大会開催 簿記要領講習会開催 税制改正で中小企業	・新商工会議所法公布 ・商工会議所法公布	・衣浦大橋開通	・衣浦港振興会創立総会 ・商工相談所を拡充	・失業保険事務組合を設立	・市庁舎、東洋町に完成	・東南アジア視察団派遣(28名)	・東京オリンピック開幕 ・東海道新幹線全線開通 創立70周年記念式典	・並びに記念講演会 ・商業青年部の結成式	・小規模事業者の記帳継続指導を ・「ヨット」「白雲」世界一周目指してスタート	・南知多道路(半田・豊丘間) 全線開通	・特定退職金共済制度がスタート ・日本万国博覧会開幕	・月報表紙に初のカラー写真を採用 全線開通	・初回の優良従業員表彰(45名) ・円変動相場制実施 (12名)	・小売商(販売士)検定試験制度発足 ・小企業経営改善資金融資制度が ・衣浦海底トンネル開通	・愛知県、国鉄に陳情 ・武豊線複線電化と高架化を ・会員数1,000名を超える	・大型保障共済制度スタート	・商工名鑑を発行	

*太字は当所に関する事内

現在も開催されている税務相談は、1947年(昭和22年)10月に開設され、同月会報誌で初めて皆様にご案内。開設当初は毎月10日に専門家を招いて開催し、多くの商工業者の方を対象とした税務相談事業として今日に至っている。



1972年(昭和47年)1月に発行された半田商工会議所月報の表紙を初めてカラー印刷。衣浦海底トンネルの本体着工を上空から撮影したカラー写真が表紙を飾った。



	昭和46年3月	昭和51年3月
製造業	260	281
建設業	64	92
卸小売業	279	518
金融業	14	21
運輸通信	28	25
サービス業	54	52
その他	69	13
合計	768	1002

出典:半田商工会議所100周年記念誌